

2018 年度日本哲学会林基金若手研究者助成

研究成果報告書

研究課題名 「推論主義から言語的観念論の懸念を取り除く」

白川晋太郎

ロバート・ブランダムは、言葉の意味は推論で果たす役割によって規定されるとする「推論主義 (inferentialism)」を提唱している。本研究課題は、推論主義につきまとう「言語的観念論 (linguistic idealism) ——われわれはすぐそこにあるはずの (言語に媒介されない) 実在世界との接触を失ってしまう (いる) のではないか——の懸念を解消することである。

反表象主義的な推論主義は、言葉と世界との表象関係を前提としない。言葉が意味をもつためには、言葉が適切な推論に位置づけられていれば十分である。推論主義は、創作物や妄想・幻覚など (いわば) 虚構的对象に関する言明の意味は説明しやすいが、「このリンゴは赤い」や「ネコがマットの上にいる」など物理的对象に関する言明とは相性が悪い。指示関係や真理条件などを必要とせずとも意味の世界は完結するので、たとえ物理的对象について有意味に何事かを語れているとしても、その言明が世界と無関係だという可能性は否定できないからである。推論主義が扱うのは、数学的・論理的な言語のみならず、科学的・日常的な言語の意味も含まれるので、言語的観念論に陥っていないかどうかは、推論主義が十全な言語理論になりうるかという点に関わる重大な問題である。

本課題では、まず、ブランドム的な推論主義では言語的観念論になることを確認した。主著 *Making It Explicit* (1994) では、世界からの「摩擦」を得るために、観察報告には世界からの因果的制約があることや、言語が世界のありかたを反映していること示そうとするが、実質的に導出されているのは、「(世界)ではなく)「他者」からの制約に過ぎない。最近出版された *A Spirit of Trust* (2019) では、世界そのものが概念的な構造をしているという「概念実在論 (conceptual realism)」がとられ、認識の客観性は、将来の人々の「想起 (recollection)」——過去の議論実践や概念内容が正しいものであると合理的に再構成すること——によって確保される。このように、*Making It Explicit* の段階では、ブランドムが言うところの「世界」が概念的なのか非概念的なのかは曖昧で、非概念的

な世界との関係を確保しようとしていたとも解釈できるが、その方法が成功しているようには思えず、他方、*A Spirit of Trust* においては、そもそも非概念的な世界との関係の確保が試みられていない。

本研究はそこで、ブランドムの推論主義の基本的な枠組みは維持しつつ、その基礎概念「コミットメント」に拡張を施すことによって、推論主義的に実在論的な直観をすくいとることを試みた。

コミットメントは、ひとりで責任を負う「個人的コミットメント」（個人的な意思表示や観察報告などによって引き受けられるもの）と、複数の主体に引き受けられ、かつ、各々の主体のコミットメントの引き受けが互いに相手のコミットメントの引き受けに依存するような「共同的コミットメント」（約束や契約などで引き受けられるもの）に区別される。（共同的コミットメントと区別される形で）個人的コミットメントが存在しうるためには、任意の内容にコミットすることはできないという、できなさをもたらす制約が必要である。この制約は規範的なものか非規範的なものかのいずれかである。あらゆる制約が規範的なものだと仮定すると論理的な不整合が生じるので、何らかの非規範的な制約がわれわれに課せられていると考えざるをえない。推論主義では、「規範的＝推論的＝概念的」という構図があるので、非規範的な制約があるということは、非概念的な領域——言語に媒介されない実在世界——から非推論的な制約があることを意味する。もちろん、こうした制約が本当にあるのかどうかを超越的な視点から検証することは、反表象主義的なプラグマティズムをとる以上はできない。そのため、「制約がある」ということは、あくまでも概念的な領域にいる者が推論的に到達するひとつのコミットメントにすぎない。しかし「個人的コミットメント／共同的コミットメント」の区別があるという言語実践の性質を受け入れるならば、引き受けることができる（引き受けざるをえない）コミットメントなのである。

以上のアイデアは学会で発表した（白川晋太郎, 2019, 「「世界」を失わない推論主義」, 応用哲学会第 11 回年次研究大会）。その際に得られた批判・コメントをふまえ現在論文を執筆中であり、近日中に学会誌に投稿予定である。

最後になりましたが、このような助成をいただきましたこと、関係者の皆様に心より御礼申し上げます。